

平成29年度病虫害発生予察予報第8号（11月）

平成29年11月2日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	<u>多(中央)</u> 、少(中西、西) 少(県下全域) 平年並(西)、やや少(中央)、少(中西) <u>やや多(西)</u> 、少(中央、中西) <u>多(西)</u> 、少(中央、中西) 少(県下全域)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(西)</u> 、平年並(東)、少(中央) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、少(中央) 少(県下全域) 平年並(東)、やや少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、少(東、中央) 少(県下全域) 平年並(中央)、(東、中西) <u>多(中西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(中央、中西)</u> 、平年並(東) 平年並(県下全域)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) やや少(中央) 少(中央) やや少(中央)

※ ( ) 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

## I 気象予報（高松地方气象台10月26日発表）

<予想される向こう1か月の天候>10月28日から11月27日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1ヶ月の平均気温は平年並の確率50%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間または平年並、または多い確率ともに40%です。

週別の気温は1週目は低い確率50%です。2週目は平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	50	20
		降水量	20	40	40
		日照時間	20	40	40

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	50	30	20
2週目		20	50	30
3～4週目		30	40	30

<予報の対象期間>

1ヶ月：10月28日（土）～11月27日（月）

1週目：10月28日（土）～11月3日（金）

2週目：11月4日（土）～11月10日（金）

3～4週目：11月11日（土）～11月24日（金）

## II 病虫害発生予想

### 1 抑制、促成キュウリの病虫害

#### 1) ベと病

**予 想** 発生量：多（中央部）、少（中西部、西部）

#### **根 拠**

(1)巡回調査では県中央部の一部で発生が見られたのみであった。発生面積は平年に比べ多かったが、発病程度は低かった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### **対 策**

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

#### 2) うどんこ病

**予 想** 発生量：少（県下全域）

#### **根 拠**

(1)巡回調査では県中西部、西部で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平

年より少なく、発病程度の高いほ場も見られなかった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

#### 3) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（西部）、やや少（中央部）、少（中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下、発生程度の高いほ場も見られなかった。

(2)気温の低下とともに、野外からのハウス内侵入は無くなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

#### 4) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（西部）、少（中央部、中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部では平年に比べやや多めであったが他の地域は少なかった。発病程度の高い地域は見られなかった。

(2)気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

#### 5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（西部）、少（中央部、中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県中西部、西部で発生が見られた。発生面積は県西部では平年に比べ多かったが、中西部は少なかった。発生程度はいずれの地域も低かった。

(2)気温の低下にともない増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

#### 6) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：少（県下全域）

## 根 抛

- (1) 巡回調査での発生は見られなかった。
- (2) 気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

## 2 促成ナスの病害虫

### 1) うどんこ病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（東部）、少（中央部）

#### 根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部では平年より多く、発病程度も高かったが、他の地域は発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 2) 黒枯病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（東部）、少（中央部）

#### 根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で多く、発病程度も高かったが、他の地域は発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：少（県下全域）

#### 根 抛

- (1) 巡回調査では県東部でのみ発生が見られた。発生面積は平年より少なかったが、発生程度は高かった。
- (2) 気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意す

る。

#### 4) ミナミキイロアザミウマ

**予 想** 発生量：平年並（東部）、やや少（中央部、西部）

**根 拠**

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であり、発生程度は低かった。

(2)気温の低下にともない増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、現在の状況が続くと考えられる。

**対 策**

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

#### 5) タバココナジラミ

**予 想** 発生量：多（中央部）、平年並（東部、西部）

**根 拠**

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部では平年より多かったが、他の地域は平年並であった。発生程度は県下全域で平年以下であった。

(2)気温の低下とともに、野外からのハウス内侵入は無くなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

**対 策**

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

### 3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

#### 1) うどんこ病

**予 想** 発生量：多（中西部）、少（東部、中央部）

**根 拠**

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部では平年より多かったが、他の地域は少なかった。発病程度はいずれの地域も低かった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

**対 策**

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

#### 2) 斑点病

**予 想** 発生量：少（県下全域）

**根 拠**

(1)巡回調査では発生が見られなかった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため現在の状況が続くと考えられる。

**対 策**

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によ

り、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) 黒枯病

**予 想** 発生量： 平年並（中央部）、少（東部、中西部）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県中央部でのみ発生が見られたが、発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### **対 策**

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 4) ハスモンヨトウ

**予 想** 発生量： 多（中西部）、少（東部、中央部）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部が多かったが、東部、中央部は少なかった。発生程度の高い地域は見られなかった。

(2) 気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

#### **対 策**

(1) 成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

### 5) ミナミキイロアザミウマ

**予 想** 発生量： やや多（中央部、中西部）、平年並（東部）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、中西部でやや多かったが、寄生密度はいずれの地域も平年以下であった。

(2) 気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなる。また増殖も緩慢になるため現在の状況が続くと考えられる。

#### **対 策**

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

### 6) タバココナジラミ

**予 想** 発生量： 平年並（県下全域）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積はいずれの地域も平年並以下であった。中央部、中西部は発生程度が高かったが、すす病の発生は見られなかった。

(2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくな

る。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

## 4 促成トマトの病害虫

### 1) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 巡回調査では発生が見られなかった。
- (2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 2) すすかび病

予 想 発生量：やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べやや少なめの発生であり、発病程度も低かった。
- (2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 巡回調査での発生は殆ど見られなかった。
- (2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない野外から施設内への侵入は無くなるため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

### 4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 巡回調査では一部のほ場で発生が見られた程度であったが、平年に比べ寄生密度が高かった。
- (2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくな

る。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

**農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。**

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫      etc.